

2021年度 デイサービスひろば 事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

公表 2022年3月1日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練等スペースとの関係で適切である		○		<ul style="list-style-type: none"> 利用人数によっては狭く感じる時がある。→児童のその日の状態を見ながら、グループ分けにより、適切な環境で活動できるようにする。 導線や配置を考え、スペースを区切っている
	②	職員配置数は適切である	○			<ul style="list-style-type: none"> 定員10名に対して5~8名のスタッフと多めに配置している。 宿題への対応に付き切りになってしまうことで、その日の出勤人数によっては少ないと感じることがある。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 車いすも入りやすい。
	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○		<ul style="list-style-type: none"> サイクルが明確化されていない。
業務改善	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向を把握し、業務改善につなげているか	○			
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 個別支援会議で話あった上で作成している
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 同じ人がすることが多いが、数人が作成に携わり、気づきや変更については、チームで話している スタッフ間で相談しながらスケジュールを作成している
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> スタッフで交代しながらプログラムを組んでいる スケジュールを組み替えて、同じにならないようにしている
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 支援開始前ではないが、状況を見ながらその都度確認している スタッフ全員が周知できるよう配慮をしている
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて行っている 終了時にスタッフで活動内容を共有している スタッフ全員が周知できるよう配慮をしている
	⑰	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			<ul style="list-style-type: none"> 記録できていないところもあると感じている 細かいことでも情報を記録している
	⑱	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ということもあるが、地域交流の機会の提供ができていない
とや関係の係連携者関	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認	○			<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて行っている 保護者より行事予定表を預かったり、

		等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか				送迎時や連絡帳のやり取りを通して調整を行っている ・急な変更があった場合、保護者から連絡がないとわからないこともある	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	・現在対象利用児童がいない ・医療従事者がいないため、受け入れることが出来ない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			・情報共有する場合は、保護者に確認してから確認している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○				
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			・事業所独自で契約しているスーパーバイザー、臨床心理士の助言を受けている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			・機会を設けることができていない(放課後児童クラブに普段通っている児童も多い)	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			・送迎時や連絡帳を使って共通理解を持つよう取り組んでいる ・送迎時、必要に応じて電話で確認している	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	・プログラムとしては伝えていないが、必要に応じて関わり方のポイントを伝えている ・コロナにより実施できていないが、ペアトシの観点をもって保護者に助言している	
保護者への説明責任等	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			・保護者から相談があった場合、その場でのアドバイス、スタッフ間で共有し話し合ったことを伝えている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか				○	・現在コロナ禍のためできていない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○				・周知はしていないが、対応はしている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○				・法人広報誌を発行している ・事業所としても不定期だが発行している
	35	個人情報に十分注意しているか	○				・必要な時以外は情報を外部へ持ち出さないように気をつけている
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか				○	・地域交流を目的としてポッチャを購入したが、コロナ禍で実施できていない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○				・実施している
	40	虐待を防止するため、職員研修機会を確保する等、適正な対応をしているかどうかのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			○	・毎年権利擁護研修に参加している ・現在必要なことはないが、必要が出てきた時には、適切な手順を踏んで対応していく
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか				○	・医師ではなく保護者よりの話やアレルギー検査結果から対応している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○				・会議等で共有している ・書類は出るが、量が少ない 出しやすい雰囲気を作る

【スタッフで話し合い、出てきた改善目標(保護者等からの事業所評価含めて)】

- ・地域とのつながりはできていないのが実情。コロナが落ち着けば実施していきたい。家庭によってはそれを望んでいない方もおられるので、家庭へ確認がいる。
- ・保護者支援のペアトシは、臨床心理士の先生にもお願いしながら、実施していきたい。

- PDCA サイクルの明確化。(なんとなくの改善ではなく)
- ここに意見が出されていない方の意見も日々の中で吸い上げていく必要がある。
- こちらが周知できないことで、保護者の皆さんに伝わっていないことがたくさんある。連絡帳、広報誌を通して伝えていく。
- 保護者同士のつながりを求めておられる。ご家庭にインターネット環境があるかどうか確認しながら、可能であればオンラインで保護者の会を実施していく。
- 職員の専門性を高めるために、発達障害に関する研修を受講し、全スタッフで日々の支援へどう生かしていくか検討していく。また実施した支援に関して、評価・改善・計画・実行のプロセスを踏み、より利用者の生活の質の向上を目指す。